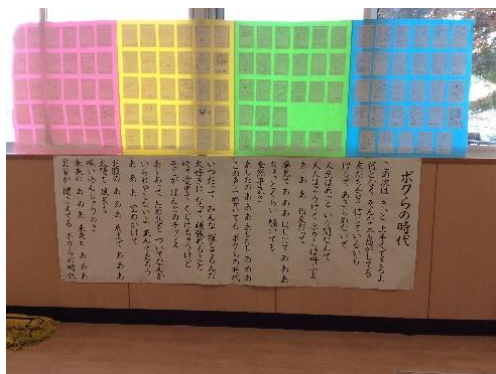


凛々しく

～附属小温故創新～

2017/11/8 No. 33

第44回合唱の会に思う1 平成4年『飛行船』を目標に取り組んだ学級合唱
合唱の会まで30日を切りました。



校内の掲示物にも合唱に関するものが多く見られるようになりました。

1階のホールには2年生の学年合唱の歌詞が掲示されています。さらにその上には学級ごとに一人一人の子どもが曲と出会ったときの感想が掲示されました。

2年生の先生方が子どもたちと曲との出会いを大事にし、一人一人の思いをしっかりと受け止めて曲に向かわせようという姿勢が伝わってきます。

また、6年4組では学級合唱に込める思いが掲示されていました。学年合唱、学級合唱の違いこそあれ、共通しているのはその曲に対する一人一人の「思い」を大事にしようとする事です。

私が附属小に初めて着任したのが25年前。それまで附属小で合唱の会が行われていることを全く知りませんでした。そしてさらに驚いたのは学級合唱を担当が指揮をする、ということでした。

では、なぜ、附属小では担任が学級合唱の指揮をするのでしょうか。

私にとって忘れられない学級合唱があります。それは平成4年、初めて附属小で合唱の会に参加させていただいた時に聴いた5年2組の『飛行船』です。曲の美しさはもちろん、歌詞の力強さと子どもたちの歌声のすばらしさに感激したことを覚えています。そして、何より、指揮者の先生と子どもたちがとても近く感じて、「歌」と「子ども」と「教師」が一つになって素晴らしい世界を創っていることが伝わってきました。

(いつか自分もこのような合唱を子どもたちと創ってみたい) と思い、

その日から、『飛行船』は私の中での学級合唱の目標となり、5年2組は目指す学級づくりの目標となりました。その後附属小で12年間学級担任として学級合唱の指揮をする機会をいただきましたが、そのたびにいつも『飛行船』を忘れることはありませんでした。

なぜ合唱の会で私たちは学級合唱を発表し、指揮を担当が行うのか。

その答えは附属小の先生方なら感じ取っていることと思います。そして、その答えの価値こそ今日まで44年間も合唱の会が継続してきた原動力ではないでしょうか。

今年も会場の変更をはじめ新たな取り組みが合唱の会に加えられました。時代の流れの中で変えていかなければならないことと、大事にしなければならないことを見極め、長く続く二大行事にしっかりと向き合っていきたいものです。



(文責：副校長 手代木)